



【宿泊業用/風水害・雪害版】 初めてでも簡単！BCP策定シート

年 月 日 策定・改訂

(解説)初めてでも簡単！BCP策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

1. 基本方針

風水害・雪害発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

- 館内のお客様・社員（役員・従業員）の人命を守る
- 重要業務である宿泊業務を継続する
- 地域社会に貢献する（復興支援者の受入など）

2. 被害想定

想定する事態	〇〇川氾濫、本館近くの崖で土砂崩れの懸念あり。
想定浸水深	〇〇川が決壊し、ハザードマップの通りとなった場合、 2.5m

3. 対応責任者

統括責任者	全社的な意思決定を行い、対応全体を統括する。
〇〇〇総支配人（代行者 ① 〇〇専務、② 〇〇常務）	
本社機能維持担当	従業員の帰宅、安否確認や安全確保等、本社機能の維持に関する実務を指揮する。
総務部 〇〇〇〇 部長（代行者 総務部 〇〇 次長）	
事業継続担当	社内注意喚起、計画的停止準備・実施、水防設備設置等の対応、重要事業の継続に関する実務を指揮する。
宿泊部門： 宿泊担当〇〇〇支配人（代行者 宿泊担当 〇〇〇副支配人） 営業部門： 営業部 〇〇〇〇部長（代行者 営業部 〇〇〇〇次長）	

4. 重要業務、目標復旧時間

重要業務	宿泊客へのサービス提供
目標復旧時間	1日

5. 対応手順（対策本部を立ち上げ、以下の手順で対応を実施します。）

2 4 時間 以上 前 から 来	①行動開始の基準		① 対応方針の決定		③ 帰宅後の業務方針の基本的な連絡方法	
	台風基準	気象庁警報で非常に強い台風もしくは、超大型台風が襲来する場合	交通状況	国道〇〇号の事前通行規制状況、 〇〇鉄道〇〇線の運行予定確認	一斉メール・連絡網を利用し、台風通過後に適切なタイミングで 出社指示を行う。	
	警戒レベル基準	警戒レベル2	帰宅方針	従業員は原則帰宅、自宅待機	④ 出社時間帯の場合の出社方針	
	②情報収集		営業方針の周知	休業を早期に告知する	出社方針	自宅待機とする。
	1	近隣の状況 （安全な場所から、河川や崖の表面の様子を観察）	② 帰宅指示		⑤ 残留者に関する方針	
	2	気象情報 （台風進路・各種気象警報）	帰宅指示 タイミング	警戒レベルが4になる恐れがある場合、 崖崩れの恐れがある場合、混雑・渋滞・ 鉄道の計画運休が発生する恐れがある 場合には帰宅指示を行う。	残留の 基本方針	残留は許可しない。帰宅指示が遅れ帰 宅できない場合のみ残留。
	3	河川等氾濫情報	総務部・人事部			
	4	行政動向 （防災無線情報等）				
	5	道路・交通機関情報				
	6	その他ライフライン情報	営業部			
	7	業務状況確認 （来館中のお客様状況・閉館作業進捗等）				
	8					

2 初 動 対 応 フ ェ ーズ	①帰宅指示後は以下の手順で対応する。		③備蓄品の状況 ※飲料水（一人1日3リットル）と食料は最低3日分、できれば7日分を準備しましょう。	
	統括責任者	・水災情報を自宅等にて引き続き収集する。 ・台風通過後以下を確認し、出社タイミングを検討 ✓ 河川氾濫状況、気象警報（洪水警報等） ✓ 上流ダムなどの緊急放流予定 ✓ 自治体からの避難勧告等の有無 ✓ その他、出社に伴う危険・支障の有無 ・連絡網を用いて出社タイミングについて連絡。あわせて安否確認を行い、自宅・家族等が無事な者に、順次出社を指示。	品名	数量
	本社機能維持担当	②救助・負傷者対応	品名	数量
	<メンバー> ・社長 ・総支配人 ・総務部長	救助・応急処置、 道具の所在	品名	数量
3 事 業 継 続 フ ェ ーズ	救助搬送先①		品名	数量
	救助搬送先②		品名	数量
	④ 帰宅指示が遅れた場合の残留者待機場所		品名	数量
	残留者待機場所		品名	数量

3 事 業 継 続 フ ェ ーズ	統括責任者	①重要業務の継続		資源の脆弱性（ボトルネック）	
	事業継続担当	対応戦略	宿泊施設を復旧させ、営業を再開する。 または別の場所で再開する。	建物、ライフライン、交通手段、従業員、食材仕入	
	<メンバー> ・総支配人 ・フロントリーダー ・予約リーダー ・レストランリーダー ・宿泊リーダー	対応手順	対策本部（総務）	フロント・予約	レストラン
		情報収集	・お客様および社員の安否確認、負傷者対応 ・建物・設備の浸水の被害状況確認、衛生面の対応 ・危険があれば施設外へ避難、避難所へ ・災害情報、施設周辺の被害の確認 ・ライフライン、フロア、調理部門（厨房）の被害状況および社員の状況等から営業が継続できるかどうか検討	・社員の安否確認、負傷者対応 ・予約管理システムの稼働状況確認 ・予約キャンセル状況の確認	・お客様および社員の安否確認、負傷者対応 ・危険があれば、お客様を避難誘導。避難所へ案内 ・テーブル・椅子、厨房内設備・ライフライン被害・稼働確認
3 事 業 継 続 フ ェ ーズ		対応	・被害（浸水）の程度により営業休止を指示 ・復旧に向けた対応計画を検討、修理業者への手配を指示 ・再開の目途が見えたら社員に連絡を指示 ・店舗再建の目途が立たない場合は、別の場所での再開も検討。	・対策本部の指示に従い、新たな宿泊の受付を停止 ・予約キャンセルの管理、連絡調整 ・再開の目途が見えたら予約再開時期を検討	・対策本部の指示により、しばらく休業 ・復旧に向けた対応計画を検討、修理業者への手配 ・再開の目途が見えたら店員・仕入先等に連絡

6. 事前準備

(1)警戒・注意フェーズ、(2)初動対応フェーズ	チェック	できていない場合	(3)事業継続フェーズ	チェック	できていない場合
行政のハザードマップを確認	✓	までに対応する	各種融資制度、助成金制度等の確認		20XX年XX月末までに対応する
「警戒レベル」を理解	✓	までに対応する	〇〇損害保険の地震保険を契約		20XX年XX月末までに対応する
社内連絡網の整備		20XX年XX月末までに対応する			
備蓄品の増強		20XX年XX月末までに対応する			
水防設備の増強		20XX年XX月末までに対応する			
		までに対応する			
		までに対応する			



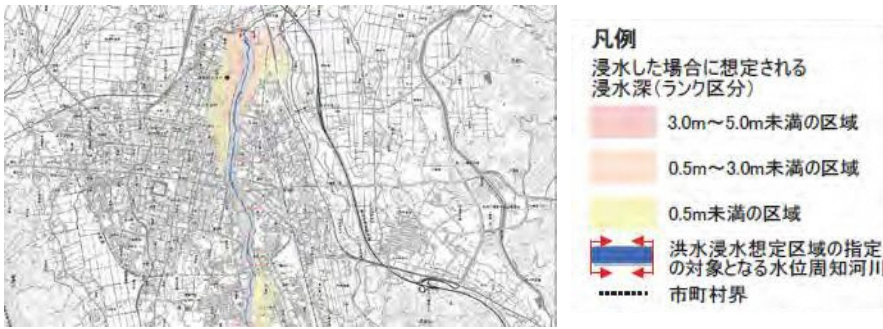
(解説)初めてでも簡単！ B C P 策定シートは、山形県内の中小企業、小規模事業者のBCPの取り組みの第一歩を後押し、分かりやすく簡単にBCPを策定いただく意図で作成しました。

I. 本社・事業所の被害想定

No	種別	拠点名称	拠点住所	避難場所	近隣河川名	計画規模降雨時の浸水深(注1)	想定最大規模降雨時の浸水深(注1)	土砂災害危険区域等(注2)
1	本社	〇〇本社	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3〇〇ビル〇階	〇〇小学校	〇〇川	3.0~5.0m	3.0~5.0m	✓
2	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇4-5-6〇〇ビル〇階	〇〇公園	〇〇川	3.0~5.0m	3.0~5.0m	
3	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9〇〇ビル〇階	〇〇公園	〇〇川	3.0~5.0m	3.0~5.0m	✓
4	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9〇〇ビル〇階	〇〇公園	〇〇川	3.0~5.0m	3.0~5.0m	✓
5	営業所	〇〇営業所	〇〇県〇〇市〇〇7-8-9〇〇ビル〇階	〇〇小学校	〇〇川	0.5~3.0m	0.5~3.0m	✓
6	工場	〇〇工場	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3〇〇	〇〇小学校	〇〇川	0.5~3.0m	0.5~3.0m	
7	工場	〇〇工場	〇〇県〇〇市〇〇1-2-3〇〇	〇〇小学校	〇〇川	0.5~3.0m	0.5~3.0m	✓

注1：洪水災害リスクを調べる。

- 山形県の洪水浸水想定区域にアクセスする。
<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kendoseibi/180006/publicfolder201004278587559221/sinsuisoutei-souteisaidaikibo.html>
- 各拠点の近隣河川の図面を選択し、計画規模降雨時の浸水深、想定最大規模降雨時の浸水深を確認し、上表に記載する。



注2：土砂災害危険区域等を調べる。

- 山形県土砂災害警戒システムにアクセスする。
[https://sabo.pref.yamagata.jp/pc/\(S\(icncd04e5jtzacnevkbptlbt\)\)/MapForm.aspx?m=8](https://sabo.pref.yamagata.jp/pc/(S(icncd04e5jtzacnevkbptlbt))/MapForm.aspx?m=8)
- 地図上で各拠点を表示する。
- 何かしらの区域に該当している場合、上表にチェックを付ける。



II. 参考情報

1. 河川水位や雨の情報（警戒レベル相当情報）について

市区町村が出す警戒レベルで確実に避難しましょう。

気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう。

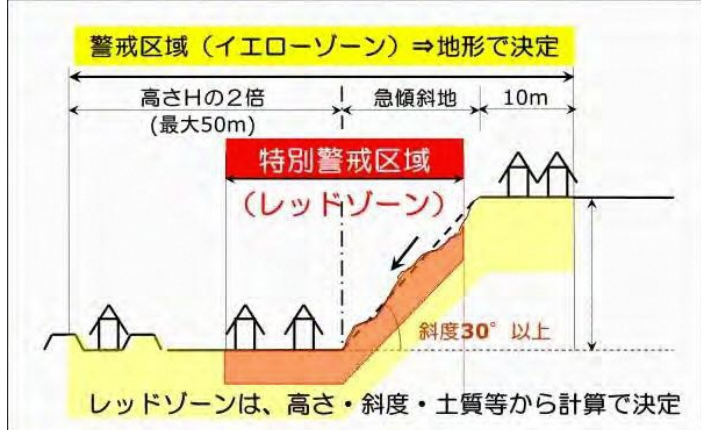
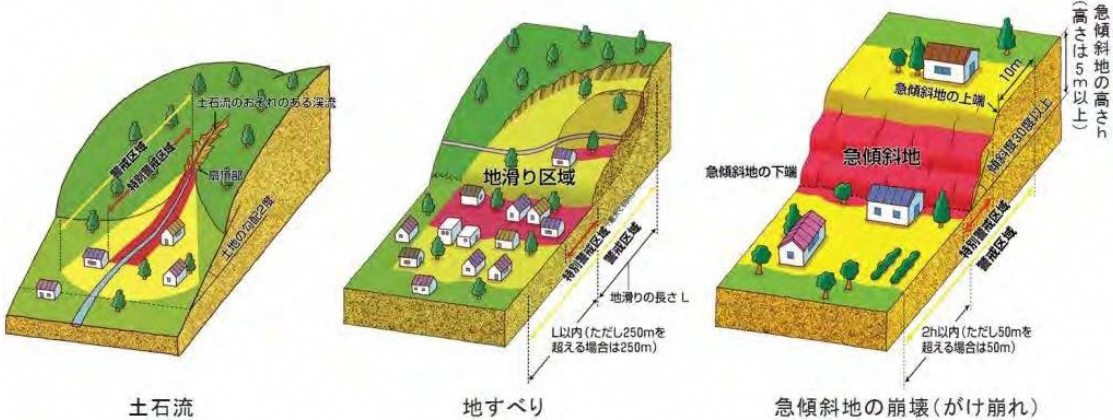
名 称：警戒レベル 発信者：市区町村等 内 容：避難情報			名 称：警戒レベル相当情報 発信者：気象庁や都道府県等 内 容：河川水位や雨の情報		
警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報（警戒レベル相当情報） 浸水の情報（河川） 土砂災害の情報（雨）		
5	命を守る最善の行動	災害発生情報	5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報（土砂災害）
4	危険な場所から全員避難	避難勧告（避難指示（緊急））	4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	危険な場所から高齢者などは避難	避難準備・高齢者等避難開始	3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	ハザードマップ等で避難方法を確認	大雨注意報 洪水注意報	2相当	氾濫注意情報	—
1	最新情報に注意	早期注意情報	1相当	—	—

出典：内閣府防災情報のページ：

http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/pdf/keikai_level_chirashi.pdf

3. 土砂災害リスクについて

土砂災害の分類	がけ崩れ	土石流	地すべり
特徴	斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。	山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大いため甚大な被害が発生。
主な前兆現象	がけにひび割れができる。小石がパラパラと落ちてくる。がけから水が湧き出る。湧き水が止まる。濁る。地鳴りがする	山鳴りがする。急に川の水が濁り、流木が混ざり始める。腐った土の匂いがする。降雨が続くのに川の水位が下がる。立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる	地面がひび割れ・陥没。がけや斜面から水が噴き出す。井戸や沢の水が濁る。地鳴り・山鳴りがする。樹木が傾く。亀裂や段差が発生
土砂災害危険箇所	急傾斜地崩壊危険箇所の被害想定区域	土石流危険区域	地すべり危険区域
土砂災害警戒区域（イエローゾーン）	イ 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域 ロ 急傾斜地の先端から水平距離が10m以内の区域 ハ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域	土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域	イ 地すべり区域 ロ 地すべり区域下端から、地すべり地塊の長さに相当する距離（250mを越える場合は250m）
土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）	土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域（土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動に対して住民の生命または身体に著しい危害を生ずるおそれのある損壊を生ずることなく耐えることのできる力の大きさを上回る区域）		



出典：政府広報オンライン：<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201106/2.html>

東京都建設局：https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/river/dosha_saigai/map/kasenbu0087.html

警戒区域・特別警戒区域の指定範囲（急傾斜地の崩壊の場合）